

## 広州大学ゲノムセンター訪問回想録

～ オープニングセレモニーに参加 ～

6月19日、中国の「広州大学ゲノムセンター（GGC）、米国に続き世界のバイオ研究を牽引していく国の1つともいわれています。その中国の新たな遺伝子研究施設のオープニングセレモニーに参加できたことは、私にとっても非常に光栄なことでした。

このきっかけとなったのは、中国、米国あるいは日本での幾重もの人との出会いでした。

それらは今、世界を股にかけた1つの壮大なプロジェクトしてスタートし、私達はこれを中国、米国、日本の3極拠点に因んで「トライアングル・プロジェクト」と呼んでいます。その3拠点がGGC（中国）、米国立衛生研究所（NIH）、PSS（日本）です。

この「トライアングル・プロジェクト」のテーマは、PSSの特許技術「バイオストランド」の臨床実用に向けた共同研究と製品化であり、NIHやGGCがもつ遺伝子情報を用いて、バイオストランドの評価・検証を行なうべく計画になっています。

このトライアングル・プロジェクトが縁で、私は今回のゲノムセンターのオープニングセレモニーにご招待戴いたわけです。

セレモニーのコンファレンスでは、米国立衛生研究所 MD. Roscoe O. Brady Dr. Zhennan Lai、ウプラサ大学（スウェーデン）Dr. Fred Nyberg、モントリオール大学 Dr. Zhibuo Wang など、蒼々たるメンバーが自らの研究テーマについて講演されましたが、



そういった中で私も「トライアングル・プロジェクト」のテーマであるバイオストランドによる遺伝子情報の臨床実用、遺伝子診断・検査システムの開発について講演させていただきました。これまであまり馴染みのなかった中国の方々が、我々の提案・提唱にどんな反応をされるのか少々心配でしたが、聴講いただいた皆さんも大変共鳴いただき、成功裡に講演を終わらすことができました。

また、セレモニーには、上記の講演者のほか、中国共産党、中国衛生部、広州大学などの要人が参加されておりましたが、こういった方々との出会いもPSSの今後の中国での事業展開に何らかの縁をもたらすのかもしれない。

今回の中国訪問では、オープニングセレモニーの他にも、SARSが最初に発生した中山大学医学部附属病院を訪問したり、学会にも参加いたしました。中国のバイオ研究・バイオ産業への傾注は私の予想をはるかに超えるものであると感じさせるものでした。中国4000年の歴史、人口13億人のパワーはやはり凄いものがあるようです。

最後の夜は、パールリバーとも呼ばれる球川でのディナークルーズに招待していただきました。日本の隅田川の何倍もの規模の大きな川で、川岸は何百メートルにもおよぶ華やかなイルミネーションで飾られており、美しい夜景を楽しむことができ、初めての中国訪問の良き思い出となりました。

今回の中国訪問を機に、PSSは中国を共同研究開発、また販売市場のターゲットとして深い関りも持つことになるでしょう。その第1弾として、今12月には新製品「ハンディーバイオストランド」を、世界に先駆けて中国市場で販売する計画を進めています。

プレジジョン・システム・サイエンス株式会社  
田島 秀二（2004.7）